

# 穂学



令和3年度

広州日本人学校 学校便り

[No.1]

令和3年5月17日(月)

発行責任者 校長 加藤康徳

## 「つながりを未来に実感させる広州日本人学校の創造」

5月も中旬に入りました。新型コロナウイルス感染症の関係で例年より遅い4月23日に始業式が行われた広州日本人学校ですが、265名(5/14時点)の児童生徒は新しい出会いの中、明るく元気に学校生活を過ごしております。

私は2週間の隔離を経て4月26日に校長として本校に着任した文部科学省派遣教師の加藤康徳です。生まれも育ちも北海道でいわゆる生粋の「道産子」です。私ごとですが、在外教育施設への派遣は今回で2度目となります。前はベルギーのブラッセル日本人学校でした。

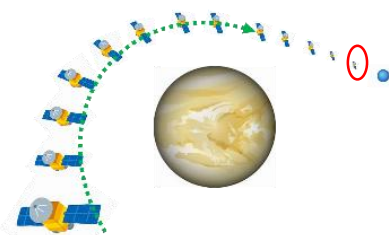
さて、現在全世界でワクチンの接種が始まったとは言え、未だに新型コロナウイルスが猛威を振るい、世界中の人々の移動が制限され、経済が停滞し、誰もが先行きの見通せない状況が続いています。これまでも経済格差、人権問題など、様々な課題の解決に向けて世界中の人々が「平和な地球社会の構築」に向け努力してきたのですが、皮肉にも災害と言えるウィルスが「お金持ちもそうでない人も、男性も女性も、子どもも老人も、そして国境さえも関係なく全ての人に平等であった。」と去年は実感させられた年でありました。

また、教育界においては新学習指導要領の本格的な実施、大学入試改革などこれからの日本の在り方を変える改革が始まりましたが、現状は新型コロナウイルス感染症の影響で教育活動に制約を受け、正に教育のラッピング状態にあると言っても過言ではありません。

しかし、このように様々な場面で問題が発生している状況ではありますが、私は子どもたちに「地球市民」としての視点を持ち、社会生活を送る中で様々な人々と「つながり」、そして協力し、逞しく問題に立ち向かっていくための「頭」と「心」と「体」を育てたいと考えています。

そして、子どもたちが未来において、様々な問題を乗り越えながらそれぞれの夢の実現に向けて歩んでいるその時に、広州日本人学校での以下の「学び」を思い出し、実感してもらえればそれはもう教師冥利に尽きることだと思っています。

1. 広州日本人学校の先生から学んで良かった。
2. 広州日本人学校で学んで良かった。
3. 広州の地域で学んで良かった。
4. 広州日本人学校から転学・進学できて良かった。
5. 広州日本人学校の友だちや仲間と学べて良かった。



<スイングバイ航法>

※5/8の保護者会で「未来に実感」のイメージを宇宙探査機のスイングバイ航法を例に説明

そこで私は広州日本人学校の子どもたちに必要な「つながり」は下記の5つ

- 1.教師とのつながり
- 2.授業とのつながり
- 3.子ども同士のつながり
- 4.保護者・日本人社会とのつながり
- 5.中国とのつながり



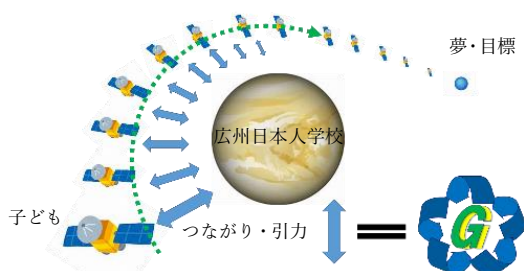
<スローガンのイラスト>  
※5つのつながり（折り返しの矢印）で子どもたち（G = Guangzhou, Goal）に実感を与えます。

と捉え、今年度の学校経営のスローガンを「つながりを未来に実感させる広州日本人学校の創造」と決めました。

我々教職員はこれから上記の「学び」を子どもたちが現在、そして未来においても実感できるように「先生」（先を生む者を育てる人）と呼ばれる所以を再度確認し、広州日本人学校の子どもたちのために「チーム」となり、協力して5つのつながりを大切にしながら子どもの教育を実践していきます。

ここでこの穂学をお読みの皆様にお願ひがあります。広州日本人学校の教育目標は「自ら学び、個性豊かに国際社会に生きる児童・生徒の育成」です。この教育目標達成のため、私達教職員は理事会の学校運営方針や学校教育方針のもと日本の未来を担う子どもたちの可能性を上記の5つのつながりを持って「開き」「紡ぎ」「伸ばす」教育を行っていきますが、私はさらに子どもだけでなく、子どもを中心として保護者の皆様や広州で暮らす日本人社会の皆様、私たち教職員、さらには中国の方々とも、「教育を通して共に成長する」ことができる広州日本人学校になればとても素晴らしいことだと思っております。

このような学校の創造に向け、保護者の皆様、ならびに日本人学校関係者の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、着任の挨拶とさせていただきます。



<5つのつながりと引力の関係>

※学校経営のスローガンが示す「5つのつながり」も「惑星の引力」も目には見えないつながりですが、間違いなく存在しています。

### <スイングバイ航法とは？>

天体の万有引力と公転運動を利用して、宇宙探査機などを目的の星に向かわせる方法のこと。日本語では「かすめ飛行」と言い、過去には「ボイジャー」、最近では「はやぶさ」などの探査機がこの航法を利用した。スイングバイを利用すると、宇宙探査機の燃料をほとんど使わずにその運動方向と速度を早めたり、逆に遅くしたりすることが可能となる。このスイングバイ航法を利用して今後は火星などへの有人飛行が行われる予定となっている。

※広州日本人学校（惑星）も、5つのつながり（引力）をバランス良く保って、子ども（宇宙探査機）をそれぞれの夢や目標に向かって力強く送り出してあげたいです。